

---

# ペットボトルの国

aki1643

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ペットボトルの国

### 【Nコード】

N1328M

### 【作者名】

aki1643

### 【あらすじ】

水を詰めたペットボトルを赤ん坊のようにかわいがる女性。彼女はなぜそんなことをしているのか？

## ペットボトルの国（１）

以前にも同じ様な状況があった。

あれは確か、去年の春。この町に越してきて間もない頃だ。

よく晴れた、「これぞ休日」といった風情の日曜の午後の公園のことだ。キャッチボールというベタなコミュニケーションの手段に休日を費やす父と、「仕方ない、家族サービスだと思って割りきるか」という顔のその息子。砂場に落とし穴を掘る男の子と、その掘った砂で城を作る女の子。

世知辛いご時勢で遊具が撤去されても、公園というのは立派なレクリエーションの場であり続けている。必要なのは道具ではなく一緒に遊ぶ相手と、暴れるための空間だ。

そんな中にその女性は居た。ベンチに座り子供を抱き、幸せそうに話しかけている。まだ言葉も分からないだろうその子に、それでも自分の愛情を声にして向けずにはいられないのだろう。

まだ少し冷たい春の風が吹き、彼女はその子のくるまっている毛布を少し直した。

僕がそんな微笑ましい光景を足を止めてぼんやりと眺めていると、事件は起きた。

その女性の抱いていた赤ん坊　結局赤ん坊ではなかったのだけれど　が、彼女の腕の中を飛び出して叫び声を挙げて走り出したのだ。

彼は「ジョン」という名前らしい。

その赤ん坊　ジョンは、僕のすぐ隣にあった電信柱の足元で急ブレーキをかけて、ウンコをし始めた。

僕は犬は嫌いではない。嫌いなのは犬に服を着せる人間だ。

落とし穴の少年が目敏くそれを拾って（素手で）持って行った。

そして今、場所はあの時と同じ公園だ。

同じく春。同じ日曜。同じように休日をごす人の中に、その女性  
性は居た。

「それ」を大事そうに抱いて、優しく声を掛け、時折「頭」を撫で  
たりもしている。去年の春と同じような光景。

違うのは 抱かれているモノだ。

彼女は水の入ったペットボトルを、毛布にくるんで大事そうに抱  
いていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1328m/>

---

ペットボトルの国

2010年10月11日18時15分発行